

## G-13 中学校・高等学校の色彩嗜好調査

岐阜大教育 中野刀子

目的 前報に引き続き 本報では中学校・高等学校の色彩嗜好調査について前回同様色彩嗜好の年令的推移について考究するとともに生徒の色彩嗜好特性に及ぼす地域公私別誘因について報告する。

方法

A 実施条件

場所 北窓 1600~1900(LX) 時間 AM 9時~PM 3時

試料 (1) Harmonic Cards 166色

(2) 背景 N/S

調査期間 1973年 6月20日~9月20日

対象校 中学校5校 高等学校4校

結果 年令の及ぼす嗜好特性の顕著な色相的差異は殆ど認め得なかつた、しかし、toneに於ては嗜好色の場合明るく軽快なpale・bright toneは減少傾向にあるといえる。また清楚なwhitetoneへの好みも高くなつてゐる。一方嫌悪色についてはdull・deep Vivid・bright・light 無彩色toneに於てある程度年令的推移を知る事ができる、しかし地域公私別要因や制服の影響についてはあまり明らかにされず、僅かに着用色の差が認められた程度で、むしろ色の好みは各種の要因によつて違つてゐるといえる。なかつても人々の価値観や生きがいの関係いゝかえれば各人の個性に応じた人間の主体性のあり方と関係づけることが必要とされてくる。